新型コロナワクチンで 627 件　アナフィラキシーとは

2022/11/17 毎日新聞

新型コロナウイルスのワクチン接種準備が整った注射器＝手塚耕一郎撮影

アナフィラキシーは薬や食べ物を体に入れると起こる、全身の激しいアレルギー反応だ。じんましんや腹痛、嘔吐（おうと）、息苦しさなどが急激に起こる。意識消失を起こしたり、血圧が低下して呼吸が停止したりする重い場合を、アナフィラキシーショックという。

　アナフィラキシーは新型コロナウイルスのワクチンだけでなく、さまざまな医薬品やワクチンの投与後にも起こる可能性がある。厚生労働省によると、インフルエンザワクチンの接種後には、因果関係の有無はわからないが、年間で約 20 件程度報告されている。

　発症後、アドレナリン（エピネフリン）やステロイドの投与など適切な治療で症状は改善する。

　新型コロナウイルスのワクチンでは、ファイザー社製の場合、国内でこれまでにアナフィラキシー疑い例として 3314 件（10 月 9 日時点）が報告され、このうち専門家が 627 件についてアナフィラキシーと認めている。頻度は接種 100 万回あたり 2・6 件となる。

　厚労省は、ワクチン接種を受けた直後の体調変化に対応できるよう、接種後 15 分間はその場で待機するよう注意を促している。アナフィラキシーショックが生じた場合に備え、会場で救急対応ができる体制や、アドレナリン製剤や血圧計など救急処置用品を接種会場に準備することを求めている。【金秀蓮】